

みんなでつくった「みんなの学校」

ドキュメンタリー映画
「みんなの学校」を観て

大阪市住吉区にある公立小学校「大空小学校」の1年を追った、ドキュメンタリー「みんなの学校」(2014年・関西テレビ放送)。

「不登校も特別支援学級もない同じ教室で一緒に学ぶふつうの公立小学校のみんなが笑顔になる挑戦。」

全ての子どもに居場所がある学校を作りたい。

学校が変われば、地域が変わる。そして、社会が変わっていく。

地域のマンモス校解消のため2003年に5・6年生のみの分校、その後06年、大空小学校として独立しました。全校児童220人中、特別支援学級に入るような子が30人。6年生では10人もいます。

知的な障害を持った子もいるし、不登校ぎみだったり、乱暴だった子も受け入れてきました。特別支援学級ではなく、同じ教室で過ごします。職員がみんな、そんな子ども達の状況を共有し、見守ります。

子どもをどなる若い教師を「言葉の暴力だ」と叱る校長。その教師が正規採用になった時「もっと厳しく指導しますからね」

この映画を観たのは横浜の映画館ジャック&ベティ。開場前には下の道路まで行列ができ、2階の上映室は満席です。若い人が多く、学校の先生らしい人もいました。

多くの大人や子どもたちに見てほしい映画です。アミューズの映画館でも上映してほしい。

校長の言葉に、「よろしくお願ひします」と胸を張って答える成長した教師。

協力的な保護者もいれば、そうではない保護者も。両親が朝早くからいない子どもへは、職員が自転車で駆け付け、起こしに行きます。厳しく温かい指導や励まし。校長を始め教職員の真剣さに圧倒されます。同時に地域の人の強力な支援も。大阪のおばちゃんがおおらかに子どもたちを受け止めます。

校長が苦渋の表情で「開校初日に、遅刻して来て走り回り騒ぐ子がいた。この子がいると良い学校にならない、逆に、良い学校にするにはこの子がいないければいいの」と思ったと言った場面があります。それを乗り越えて、子どもたちが信頼できる大人、最後の砦となって、子どもたちを学校に惹きつけています。この校長がこの学校をつくったのだという事が伝わってきます。

親観わって心配になったこと。校長が変わったこの形を維持できるだろうか。卒業した子どもたちが、中学校へ行ったかどうか。うなるのだろうか。

この映画を観たのは横浜の映画館ジャック&ベティ。開場前には下の道路まで行列ができ、2階の上映室は満席です。若い人が多く、学校の先生らしい人もいました。

多くの大人や子どもたちに見てほしい映画です。アミューズの映画館でも上映してほしい。

話題あれこれ

変貌した初音町商和会

映画「みんなの学校」を観に行ったとき降りたのが横浜市中区京急黄金町駅。近くの初音町商和会がかつて「青線」地帯として風俗店が軒を連ねていたところ。終戦後からずっとガレキの下に店が並び、1階は料理屋、2階の小屋で売春が行われていました。その後京急が耐震対策でガレキの下を閉鎖したのですが、そのわきで営業が続いていました。

このままではいけないと、地域住民が立ち上がり、安心・安全なまちに変えたという事例として、よく取り上げられる地域です。

2002年9月に地域では「風俗拡大防止協議会」を設け、横浜市、京急などと協議し、翌年には「初音・日ノ出町環境浄化推進協議会」が設立されました。そして、中区など地元自治体が、黄金町界隈の「環境浄化」を求めて、売春防止法の罰則強化・不法滞在者の取締り強化を求める要請書を提出しました。

違法行為を野放しにしていた神奈川県警もこのエリアに手をつけざるを得なくなりました。04年末から翌年にかけて県警が24時間体制のパトロールを始めます。名付けて「バイバイ作戦」。警官が四六時中、道路を巡回しているとなれば、不法滞在している外国人たちも売春をさせていた店側も営業を続けることができません。もちろん地元住民もパトロールを精力的に行いました。

そしていま、まちは変貌し、事務所やギャラリー、居酒屋、喫茶店などになっています。きれいになった初音町商和会(右)、喫茶店も(左)



今週の活動から



(仮) 収蔵資料館の建設予定地は、中央家の跡地で

すが、それ以前は厚木市立青森小学校でした。大正9年から昭和41年まで下川入と棚沢地域の学び舎でした。そこには松の大木がありますが、戦時中に、戦闘機の燃料にするために児童が「松ヤニ採取」した傷跡が残っています。厚木の歴史の1ページとして、建設される資料館に特別のスペースを望む声もあります。

(上: 釘丸久子議員)



での住民の活動は大変なものがあったことでしょう。大岡川の手すりにはチューリップが咲いていました。これも地域の力です。

(下: 栗山香代子議員)

